

栄光学園創立者による自筆 メモの構成と内容

1

2022年12月21日
モナビIT コンサルティング
大野 邦夫

12/21/2022

2

目次

- はじめに
- 手書きメモの概要
 - 教師の政治活動
 - 教員養成と教師の質の向上
 - 家庭での教育の重要性
 - 教育の原点
 - 国家と教育
 - 戦後教育の甘やかし
 - 教師のチームワークで自立教育を目指す
 - 日本の教育の問題：自立より受験
 - 日本におけるカトリック教育
 - 肩書や学歴でない良い人間の育成
- 考察
- おわりに

12/21/2022

3

はじめに

- 年次大会での「栄光学園創立者による自筆メモの分析と考察～情報分類とXMLによるタグ付けのプロセス」で紹介した文書の構成と内容を本報告で紹介。
- 展望が不透明な現状の日本における教育の方向性を、戦後のキリスト教ミッションスクール設立者の建学精神・運営過程を通じて考えたい。
- デジタル人文学の一分野としての人材育成・リベラルアーツ研究の事例として本検討を紹介し、人文学分野に興味を持つ学際的研究者を育てたい。

12/21/2022

4

栄光学園中学高等学校

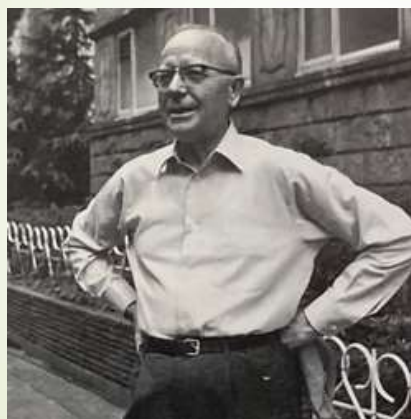
昭和22年（1947年）設立
カトリック教会のイエズス会が経営
初代校長グスタフ・フォス神父



12/21/2022

5

栄光学園創立者グスタフ・フォス神父 (著書「日本の父へ再び」より)



1912年、ドイツのドルトムント市に生れる。1939年、アメリカに留学、歴史学・神学を研修。1942年、カトリック司祭として叙階。1946年、カリフォルニア大学大学院(東洋言語学)を卒業し、再来日。上智大学教授を経て、1947年、栄光学園校長に就任(1977年辞任)。1956年、同学園理事長、現在、同学園名誉学園長。日本カトリック学校連合会理事長。著書に『日本の父へ』(新潮社)がある。

12/21/2022

6

グスタフ・フォス初代校長の自筆ノート

2018～19年における同窓会のアーカイブチームの書類整理活動で発見



12/21/2022

7

自筆ノートのページ分類

- 手書き（9ページ）
- 英文タイプ・印刷（3.5ページ）
- 和文印刷（1.5ページ）
- 記事切り貼り（6ページ）
- 雑誌記事コピー（21ページ）

12/21/2022

8

手書きメモの概要

12/21/2022

9

教師の政治活動

Wikkōsō
Kōtōshi shūdan yori mo seijiteki shūdan de aru
Osoraku, sekai no dono keni mo Kōtōshūdan
yori mo!
shakaishugi Kakumei ni sanku dankai!
Kaitō fūto ni yotte shakai tōngi shakai e!
Kumiai to iu mono wa honrai, Kumiaiin no
fukuri, kōsei nado wo mokuteki to suru.
Wikkōsō wa: "Behnam ni tsuiwa mo"
"Behnam dattara" made
Sore ga shiroyaku shite yōdō wa?
Kōtōshūdan to shite kōsei to iu
kimotta soto no shikaku nado mo
mōso ni maru... aite wa seido oboe...
Kōtōshi no ita de okonawarazu seijiteki
wa chōriten de wa mōketei maranai.

<ローマ字>Nikkō-so</ローマ字>

<和訳>日教組</和訳>

<ローマ字>Kōtō-shū-dan yori mo seijiteki shūdan de aru</ローマ字>

<和訳>教育集団よりも政治的組織集団である</和訳>

<ローマ字>Osoraku, sekai no dono keni mo Kōtōshūdan yori mo!

shakaishugi Kakumei ni sanku dankai</ローマ字>

<和訳>おそろく世界の権威の教員組合よりも

社会主義革命に参加段階</和訳>

<ローマ字>Kaikyu-to-so-ni yotte shakai shugi shakai e!</ローマ字>

<和訳>階級闘争によって社会主義社会へ!</和訳>

<ローマ字>Kumiai to iu mono wa honrai, Kumiaiin no fukuri, Kōsei nado wo
mokuteki to suru.</ローマ字>

12/21/2022

10

教師の政治活動

- カトリックの司祭と言う立場で、共産主義的政治活動には反対
 - 文部省や自民党を支持しているわけではない
 - 日本のリベラルな知識人・社会党や労働組合も支持しない
- 占領軍が持ち込んだ戦後民主主義を支持しない
- 日本の教育者や教育関係者で、真の教育のリーダーとして信頼を置ける人物は存在しなかった
 - 是々非々の立場で自問自答を繰り返した
 - 自筆メモは、その自問自答を綴ったもの

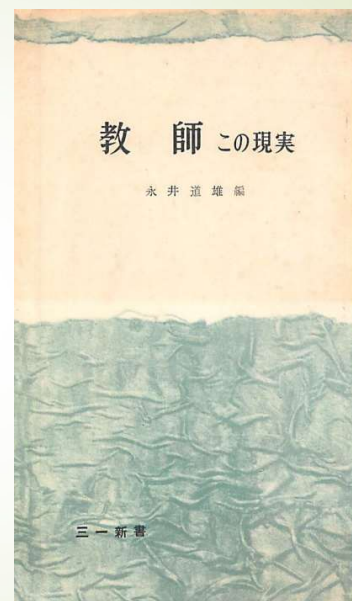
12/21/2022

教員養成と教師の質の向上

- 教師は「聖職者」か「労働者」か？
 - 1950年代に、日教組が結成された際に社会的問題になり、公務員の労働基本権のあり方として国民的な対立を招いた
- 自らが聖職者であることから、労働者ではなく「聖職者」の立場
- 現場における教師の意識はサラリーマンであり、自らを聖職者と認識する教師は極めて限られていたと指摘
 - 永井道雄氏（東工大教授、朝日新聞論説委員、三木内閣文部大臣）は「でもしか教師」の問題を指摘（1957年の著書「教師：この現実」）
 - 永井道雄氏は、聖職者か労働者かという議論に対しては、「聖職者でありかつ労働者である」という立場を取る～弁証法的に止揚する立場（1957年の著書「教師：この現実」）

12/21/2022

はじめに	1
教育の現実	1
一、親のねがいと子のねがい	1
(1) 親のねがい	1
(2) 子どものねがい	1
(3) 教師の姿勢	1
二、教師生活の悲哀	1
(1) 教師と嫉妬	1
(2) ある教師の生活記録	1
(3) 教師のアルバイト―家庭教師	1



12/21/2022

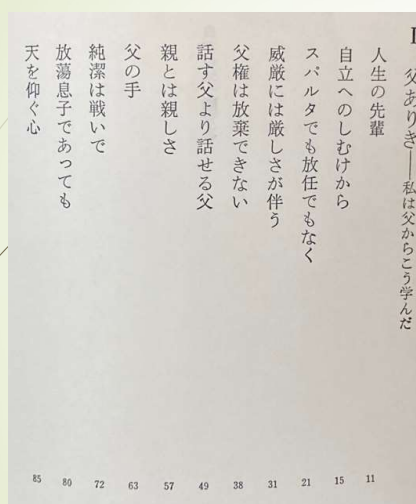
13

家庭での教育の重要性

- 家庭での両親による教育の重要性を指摘
- 炭鉱夫であった父親から学んだことが絶大であった（著書：日本の父へ）
- 両親の教育は子供への愛情に基づくもので、仕事への対価を要求する労働者的ではない
 - 父親からの薫陶を経験したフォス校長の価値観は、必ずしも普遍的とは言えない
 - 歴史を通じて家庭には恵まれなかった人は少なくはない
 - 時代の推移で現在は親の離婚などもあり、家庭での教育は難しくなっている
 - 戦後のTV番組等のマスメディアの影響, さらに最近はインターネットによる影響が家庭教育を困難にする（D・リースマンの「孤独な群衆」における「他人指向」的性格）

12/21/2022

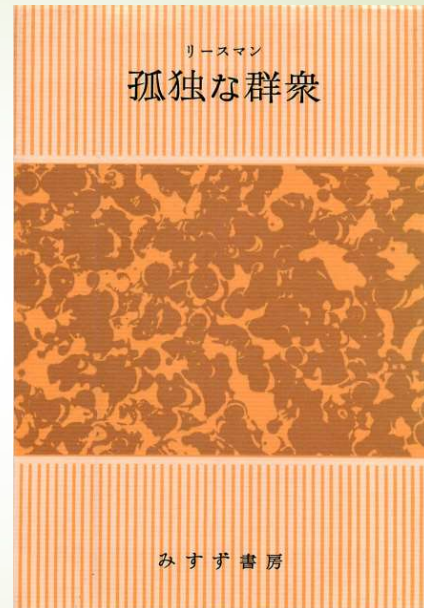
14



12/21/2022

15

目次	
序文	日本語版への序文
第一部 性 格	
第一章 性格と社会の類型	1
第二章 性格のたぐい	10
第三章 道徳律から規律へ	20
第四章 国民の性格の変化	30
第五章 仲間による差別——自他意識の発生	40
第六章 内部世界における同質性	50
第七章 他人意識における同質性	60
第八章 技術の教師としての物語——他者意識の発生	70
第九章 内部世界における同質性	80
第十章 内部世界における同質性	90
第十一章 内部世界における同質性	100
第十二章 内部世界における同質性	110
第十三章 内部世界における同質性	120
第十四章 内部世界における同質性	130
第十五章 内部世界における同質性	140
第十六章 内部世界における同質性	150
第十七章 内部世界における同質性	160
第十八章 内部世界における同質性	170
第十九章 内部世界における同質性	180
第二十章 内部世界における同質性	190
第二十一章 内部世界における同質性	200
第二十二章 内部世界における同質性	210
第二十三章 内部世界における同質性	220
第二十四章 内部世界における同質性	230
第二十五章 内部世界における同質性	240
第二十六章 内部世界における同質性	250
第二十七章 内部世界における同質性	260
第二十八章 内部世界における同質性	270
第二十九章 内部世界における同質性	280
第三十章 内部世界における同質性	290
第三十一章 内部世界における同質性	300
第三十二章 内部世界における同質性	310
第三十三章 内部世界における同質性	320
第三十四章 内部世界における同質性	330
第三十五章 内部世界における同質性	340
第三十六章 内部世界における同質性	350
第三十七章 内部世界における同質性	360
第三十八章 内部世界における同質性	370
第三十九章 内部世界における同質性	380
第四十章 内部世界における同質性	390
第四十一章 内部世界における同質性	400
第四十二章 内部世界における同質性	410
第四十三章 内部世界における同質性	420
第四十四章 内部世界における同質性	430
第四十五章 内部世界における同質性	440
第四十六章 内部世界における同質性	450
第四十七章 内部世界における同質性	460
第四十八章 内部世界における同質性	470
第四十九章 内部世界における同質性	480
第五十章 内部世界における同質性	490
第五十一章 内部世界における同質性	500
第五十二章 内部世界における同質性	510
第五十三章 内部世界における同質性	520
第五十四章 内部世界における同質性	530
第五十五章 内部世界における同質性	540
第五十六章 内部世界における同質性	550
第五十七章 内部世界における同質性	560
第五十八章 内部世界における同質性	570
第五十九章 内部世界における同質性	580
第六十章 内部世界における同質性	590
第六十一章 内部世界における同質性	600
第六十二章 内部世界における同質性	610
第六十三章 内部世界における同質性	620
第六十四章 内部世界における同質性	630
第六十五章 内部世界における同質性	640
第六十六章 内部世界における同質性	650
第六十七章 内部世界における同質性	660
第六十八章 内部世界における同質性	670
第六十九章 内部世界における同質性	680
第七十章 内部世界における同質性	690
第七十一章 内部世界における同質性	700
第七十二章 内部世界における同質性	710
第七十三章 内部世界における同質性	720
第七十四章 内部世界における同質性	730
第七十五章 内部世界における同質性	740
第七十六章 内部世界における同質性	750
第七十七章 内部世界における同質性	760
第七十八章 内部世界における同質性	770
第七十九章 内部世界における同質性	780
第八十章 内部世界における同質性	790
第八十一章 内部世界における同質性	800
第八十二章 内部世界における同質性	810
第八十三章 内部世界における同質性	820
第八十四章 内部世界における同質性	830
第八十五章 内部世界における同質性	840
第八十六章 内部世界における同質性	850
第八十七章 内部世界における同質性	860
第八十八章 内部世界における同質性	870
第八十九章 内部世界における同質性	880
第九十章 内部世界における同質性	890
第九十一章 内部世界における同質性	900
第九十二章 内部世界における同質性	910
第九十三章 内部世界における同質性	920
第九十四章 内部世界における同質性	930
第九十五章 内部世界における同質性	940
第九十六章 内部世界における同質性	950
第九十七章 内部世界における同質性	960
第九十八章 内部世界における同質性	970
第九十九章 内部世界における同質性	980
第一百章 内部世界における同質性	990
終章	1000



12/21/2022

16

教育の原点

- 「悪い少年はいない」という前提で、人間には教育が必要なことを、パスカルやカントの哲学思想に基づき論じている。
- 子供が知識を獲得し、思想を育てていく過程を、パスカルの「葦の譬え」を元に考察している。
- 弱々しい葦が強くなるには、考える力を育て、伸ばし、磨くことが必要で、そのために教育が必要

12/21/2022

17

国家と教育

- 戦前は教育勅語や修身教育により国家に奉仕する知識や技術の教育が行われた
 - 明治維新から、国家主義的な教育が制度化されるまでは、福沢諭吉や中江兆民等による在野の人々による自由民権運動が起こされた～明治時代の自由思想
- 日本が近代国家の制度的な枠組みを整える段階で、教育が国家建設の手段として用いられ、政教一致の体制になり第二次大戦による敗北を迎えた
 - 占領軍は、日本の教育が、日本の軍国主義の元凶であり、これを廃止することが日本の民主化にとって必要であると見做した
- 自由に考え個人を自立させる教育は戦前には行われなかった
- 戦後は、国家が経済に代わっただけで、やはり知識、技術偏重の教育が行われている
 - フォス校長は、日本の政府や世論が、国家を社会に置き換え、目的を国家から経済に置き換えたの見做した

12/21/2022

18

戦後教育の甘やかし

- 戦前の国家主義教育は廃止されたが占領軍によりもたらされた戦後民主主義は、人間教育への厳しさを失い、全面的に甘やかす教育になった
- 政府・自民党は人材育成に関しても経済界からの要求に基づく願望を抱いた
- その具体的な内容を中央教育審議会が「期待される人間像」として提案
 - 「期待される人間像」は世論からの非難で社会的には受け容れられなかった
- 経済同友会が、「期待される人間像」に関連して何らかのレポートを提言
- その文書に関連してフォス校長は、日本の受験教育を「盆栽造り」に譬えた（著書：日本の父へ再び）

12/21/2022

19

2	「立心」出世の勧め 家庭は受験産業の下請けか	62
1	立身出世の功罪 ブローグ 瓦礫の中から 廃墟に立ちつくした日 フィヒテの言葉	10 17
	わが青春の思い出 忙しすぎる子供たち 知的肥満をつくるな 芸術だけが情操教育か 点取り親がつくる「ボンサイ」 一点に泣く子 それでもエリート養成を	26 32 35 39 44 49 54



12/21/2022

20

教師のチームワークで自立教育を目指す

- 受験教育と甘やかし教育への対処は、公立学校では難しいが、私立学校であれば教師のチームワークにより改善する可能性があることを指摘
 - 公立学校は、文部省の通達に縛られ、地域の教育委員会の管理下にあるので、特徴ある柔軟な教育方針を出すことは難しい
 - 私立学校は宗教的な背景から、倫理的・道徳的な考えに基づき、人間性に富んだ自立的・人格的な教育を行うことが可能
- 教育の目的は、理想的には時代や国境を超えて通用する自立的な人材の育成にある
- 国や自治体の制約が大きな公立校よりは、自由に方針を定め、チームワークで教育できる私立校の方が可能性がある

12/21/2022

21

日本の教育の問題：自立より受験

- 自立した人材育成を目指すための障害になるのが、日本の国民の教育への過剰期待
 - 日本の家庭では、子供が勉強して試験に受かって良い学校に進学し、立身出世することを重視する
- フォス校長は立身出世の受験勉強を盆栽造りに譬えている
- 受験教育に批判はあるものの、それを無視しては学校経営は成り立たない
 - 栄光学園は、フォス校長の意図とは別に、受験校として有名になった
 - 東京大学への入学者数では神奈川県屈指の高校に名を連ねると共に、フォス校長の名前も知られるようになった

12/21/2022

22

日本におけるカトリック教育

- 有名受験校の校長・教育者として、カトリック教会関係のミッションスクールとしての経営の有名人になる
 - 男子校の栄光学園で成功したモデルを女子の小学校、中学・高校でも継承できないかと言う要望が寄せられる
- フォス校長は、小学校と中学を統合して9年間のカリキュラムとし、特徴ある教育を行うアイデアを持っていた
 - 例えば、英語教育を小学校から始めて、聖マリア小学校と清泉中学との連携を試みるカリキュラム
- ミッションスクールは、日本においては信者を増やすことが目的ではなく、立派な社会人である優れた人間を養成することにある

12/21/2022

23

肩書や学歴ではない良い人間の育成

- 日本の家庭では、子供の自主性を尊重するが、子供（生徒）は偉い人になりたがり、親はそれを勧めると共に強制する文化がある
- 子供や親が考える偉い人は、医者、弁護士、企業家、大学教授のような金持で肩書の立派な高い地位にある高学歴の人物
- 日本では、社会の底辺で働くような仕事への配慮や価値観への教育が乏しい
- 本来の教育の目的は「自立した良い人間、立派な社会人」を育成することにあるが、それを日本の家庭や生徒の価値観とすることが課題

12/21/2022

24

考察

12/21/2022

25

自筆メモの趣旨

■ 問題点

- 戦後民主主義は、人間教育への厳しさを失い、全面的に甘やかす教育になった
- 教師は聖職者的であるべきだが現場教師の意識はサラリーマンであり、自立した教師は限られていた
- 政府・自民党は人材育成に関して「期待される人間像」として提案し、その文書に関連してフォス校長は、日本の受験教育を「盆栽造り」に譬えた
- 自立した人材育成を目指す教育のための障害は日本の国民の教育への過剰期待と受験教育
- 日本では、社会の底辺で働くような仕事への配慮や価値観への教育が乏しいのが問題

■ 展望

- 教育の目的は、理想的には時代や国境を超えて通用する自立した人材の育成にある
- 本来の教育の目的は「自立した良い人間・立派な社会人」を育成することにあるが、それを日本の家庭や生徒の価値観とすることが課題
- ミッションスクールは、布教が目的で、信者を増やすことが使命という考えがあるが、日本においては良い社会人である優れた人間を養成することが重要で布教に優先する

12/21/2022

26

おわりに

- フォス校長が目指した栄光学園での教育の理想は、「自立したよい人間・立派な社会人の育成」であり、受験教育、カトリック布教ではなかった。
- しかし、栄光学園の教育はフォス校長が目指した理想を推進したとは言い難い。
- 理想を阻んだ要因としては、日本の教育行政の問題と、学歴社会を背景とする日本社会と文化の問題が挙げられる。
- 今後の課題として、フォス校長の思想を、今回の結果に基づきさらに検討したい。
- 平和主義で生きてきた戦後日本は曲がり角にあり、その将来を深く考える人材の育成を考えたい。

12/21/2022